

## 軍鶏の飼養管理に関するアンケート調査結果について

### 1. 本調査について

目 的	都道府県機関が保有している軍鶏(種鶏)について、飼養実態を明らかにするとともに、飼養管理方法等に関する情報を整理する。
実施時期	第1回：令和1年7~8月 第2回：令和2年1~5月
対 象	第1回：都道府県機関および兵庫牧場(計35機関) 第2回：軍鶏を保有する都道府県機関および兵庫牧場(計20機関)
調査項目	【1】軍鶏の保有状況 ※1                      【8】産卵率による飼料給与量の調整 【2】軍鶏の由来                                      【9】季節による受精率の変動 【3】飼養方法    【10】上記【9】への対応 【4】目標体重の有無                                  【11】軍鶏を飼養する中での問題 ※2 【5】飼料給与量                                      【12】飼養管理マニュアルの有無 ※1 【6】体重測定    【13】マニュアル化が必要な事項 ※1 【7】飼養している系統の成績
備 考	● ※1については、第1回調査において得た回答。 ● ※2については、第1回および第2回調査において得た回答をまとめた。 ● 複数回答がある場合は、回答機関数を分母として割合を計算した。

### 2. アンケート結果

#### 【1】軍鶏の保有状況

回答：35機関

	機関数	割合
保有している	20	57.1
保有していない	8	22.9
過去に保有していた	7	20.0



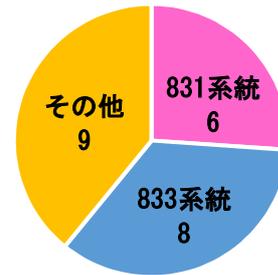
## 【2】軍鶏の由来

	機関数	割合
兵庫牧場 831系統	6	30.0
兵庫牧場 833系統	8	40.0
その他	9	45.0

<その他>

- ・ 県内由来
- ・ 他品種との合成種（兵庫牧場「龍軍鶏ごろう（834系統）」等）

回答：20 機関（複数回答あり）

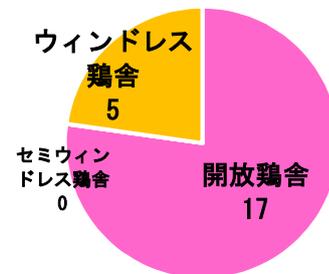


## 【3】飼養方法

### 【3 - 1】鶏舎構造

	機関数	割合
開放鶏舎	17	85.0
セミウィンドレス鶏舎	0	0.0
ウィンドレス鶏舎	5	25.0

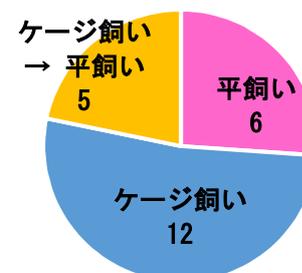
回答：20 機関（複数回答あり）



### 【3 - 2】鶏舎内構造

	機関数	割合
平飼い	6	30.0
ケージ飼い	12	60.0
ケージ飼い→平飼い	5	25.0

回答：20 機関（複数回答あり）



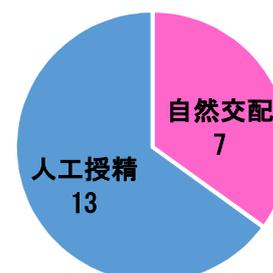
<備考>

幼すう期はバタリー、育成期は群飼ケージ、成鶏期は単飼ケージを使用している機関が多い。

### 【3 - 3】交配方法

	機関数	割合
自然交配	7	41.2
人工授精	13	76.5

回答：17 機関（複数回答あり）



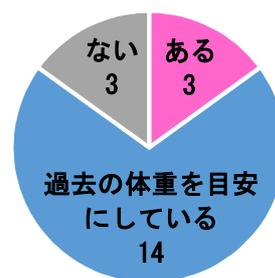
<備考>

平飼いでは主に自然交配、ケージ飼いでは主に人工授精により種卵採取を行っている。

#### 【4】目標体重の有無

回答：20 機関

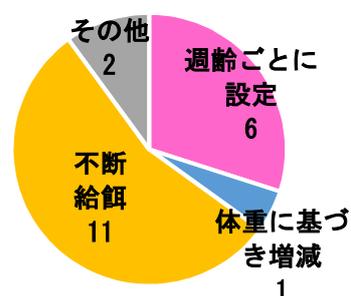
	機関数	割合
週齢ごとの目標体重が存在する	3	15.0
明確な目標体重はなく、成長度合いを確認するため過去の平均体重を目安にしている	14	70.0
その他（設定していない）	3	15.0



#### 【5】飼料給与量

回答：20 機関

	機関数	割合
週齢ごとの飼料給与量が存在する	6	30.0
体重測定の結果を参考に給与量を増減させる	1	5.0
不断給餌	11	55.0
その他	2	10.0



<その他>

- ・ 16 週齢まで不断給餌、その後制限給餌
- ・ 基本的に 5 週齢以降は制限給餌であるが、残量によって調整し、産卵率および精液採取量によっては不断給餌を行う

#### 【6】体重測定

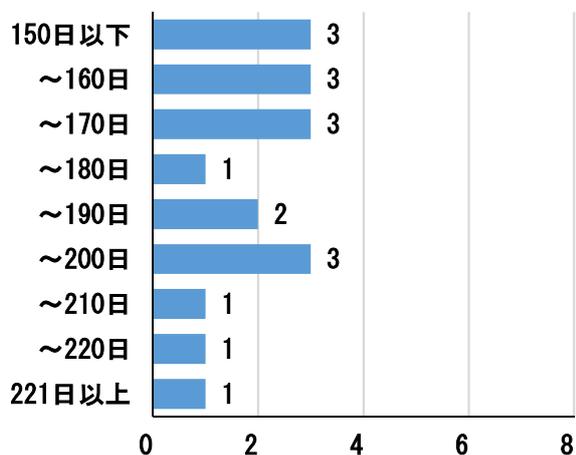
いずれの機関も、全数または抽出により体重測定を行っている。測定する時期は初生時から 42 週齢前後まで、機関ごとに異なる。

#### 【7】飼養している系統の成績

##### 【7-1】初産日齢

回答：18 系統

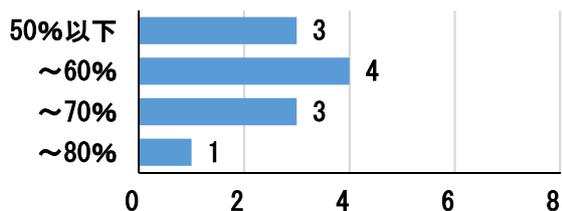
	系統数	割合
150日以下	3	16.7
～160日	3	16.7
～170日	3	16.7
～180日	1	5.6
～190日	2	11.1
～200日	3	16.7
～210日	1	5.6
～220日	1	5.6
221日以上	1	5.6



【7-2】産卵率（31～35 週齢）

回答：11 系統

	系統数	割合
50%以下	3	27.3
～60%	4	36.4
～70%	3	27.3
～80%	1	9.1



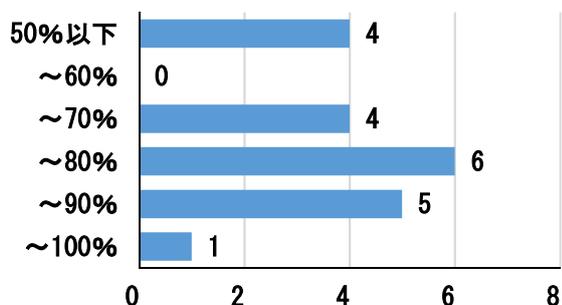
<その他の期間>

- ・ 20～43 週齢 約 58%
- ・ 25～61 週齢 約 60%
- ・ 25～64 週齢 約 41%
- ・ 25～64 週齢 約 45%
- ・ 26～43 週齢 約 37%
- ・ 27 週齢 約 84%
- ・ 27～57 週齢 約 28%
- ・ 30 週齢 約 53%
- ・ 35 週齢 約 43%
- ・ 36～40 週齢 約 51%
- ・ 36～59 週齢 約 50%
- ・ 36～60 週齢 約 45%
- ・ 43 週齢 約 35%
- ・ 48～52 週齢 約 50%
- ・ 70～74 週齢 約 50%

【7-3】受精率

回答：20 系統

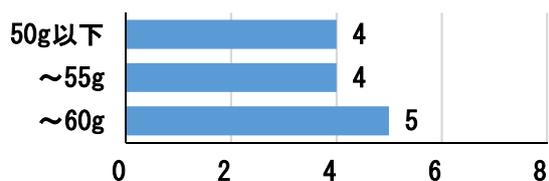
	系統数	割合
50%以下	4	20.0
～60%	0	0.0
～70%	4	20.0
～80%	6	30.0
～90%	5	25.0
～100%	1	5.0



【7-4】卵重（週齢の限定をせずに聞き取り）

回答：13 系統

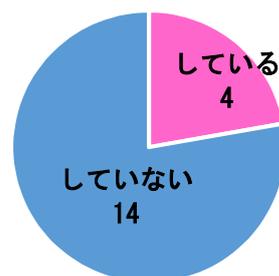
	系統数	割合
50g以下	4	30.8
～55g	4	30.8
～60g	5	38.5



【8】産卵率による飼料給与量の調整

回答：18 機関

	機関数	割合
している	4	22.2
していない	14	77.8



【9】季節による受精率の変動

回答：20 機関

	機関数	割合
ある（特に夏場）	0	0.0
ある（特に冬場）	1	5.0
ある（夏場および冬場）	6	30.0
なし	4	20.0
その他	9	45.0



<その他>

- ・ 個体差が大きい
- ・ 1年のうち限られた時季または回数だけの成績であるため、季節による変動は不明

【10】上記【9：受精率の変動】への対応

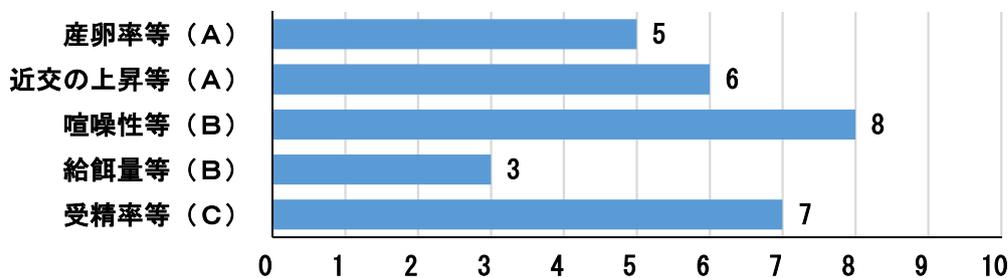
- 暑熱または寒冷対策を行う
- 飼料にガーリック等の補助成分を添加する
- 受精能力が低い個体は別の個体と交換する
- 交配させる雌雄の羽数を調整して必要な種卵を確保する 等

【11】軍鶏を飼養する中での問題

回答：15 機関（複数回答あり）

分類	問題点	機関数	割合
A	産卵率が低い、卵質が悪い	5	33.3
A	小規模での維持による近交の上昇が懸念される、脚弱・奇形・特定の疾病が発生する	6	40.0
B	喧噪性、闘争による損耗、交尾による雌の損耗	8	53.3
B	給餌量、体重コントロール、温度管理等に苦慮	3	20.0
C	受精率（精液性状）が安定しない、孵化率が低い	7	46.7

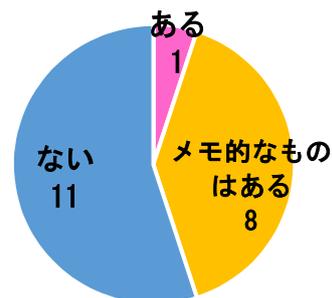
分類A：主に育種改良の課題 B：主に飼養管理の課題 C：育種改良および飼養管理に共通する課題



【12】飼養管理マニュアルの有無

回答：20 機関

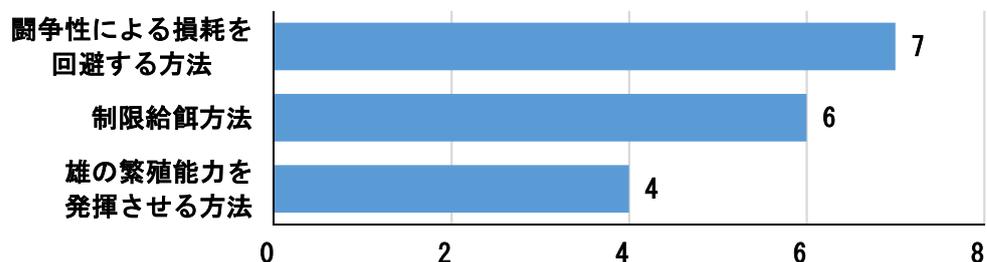
	機関数	割合
ある	1	5.0
メモ的なものはある	8	40.0
ない	11	55.0



【13】軍鶏（種鶏）の飼養管理においてマニュアル化が必要な事項

回答：14 機関（複数回答あり）

	機関数	割合
闘争性による損耗を回避する方法	7	50.0
制限給餌方法	6	42.9
雄の繁殖能力を十分に発揮させる方法	4	28.6



<その他>

- ・ 飼養密度
- ・ 限定的なマニュアルではなく、種鶏管理の網羅的なマニュアルが必要

3. まとめ

今回のアンケートにより、都道府県機関における軍鶏の飼養実態が明らかになり、大きく分けて「育種改良上の課題」と「飼養管理上の課題」があることが整理できた。このうち、「育種改良上の課題」については直ちに解決できるものではないため、将来にわたり継続して努力していく必要がある。「飼養管理上の課題」については特に軍鶏の闘争性が大きな問題となっているため、今後は、軍鶏特有の性質である闘争性への対策や種鶏としての飼養管理方法について、内外の知見や取組みに関する情報を収集し提供していくこととしたい。

（以上）